

現代邦楽

響

HIBIKI
2024

NHK邦楽技能者育成会同窓会

2024年4月5日(金)

開演:19時00分(開場:18時30分)

会場:豊洲シビックセンターホール

〒135-0061 東京都江東区豊洲2-2-18 豊洲シビックセンター内 5F

ごあいさつ

本日は、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。

現代邦楽作品の採掘と継承および会員の研鑽を目的に開催しております、現代邦楽「響」の公演も本日7回目を迎えます。これも私共の活動をご理解、ご支援くださいます皆様のお陰でございます。改めて御礼申し上げます。

1960年代を中心に、NHKはじめ意欲的な演奏家の努力により生まれた現代邦楽作品には、聴きごたえ、演奏しごたえのある作品であるにもかかわらず、演奏の機会がほとんど無くなっているものが多くあります。現代邦楽のさまざまな作品を舞台にのせ、皆様に聴いていただく機会をもつことは、かつてNHK邦楽技能者育成会という場で学んできた私共の使命であると思っております。

地道な活動ではありますが、続けていくことで、先輩たちの努力と熱意により生まれた素晴らしい作品を未来に残していけるものと信じております。

今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

現代邦楽「響」実行委員会

現代邦楽「響」に寄せて

竹井 誠 (27期:尺八)

「現代邦楽」、この言葉を強く意識したのは最近のことです。大学4年生の時、日本音楽集団(以下集団)に尺八の研究団員として入団したので、早くから、現代邦楽の洗礼を受けたことになります。しかし、中学、高校と吹奏楽部でトロンボーンを吹き、大学のサークルで始めた尺八は8孔(後に5孔との互換性から7孔になりますが)。ロツレ譜による三曲合奏より、五線譜で書かれた曲ばかり、たとえば佐藤敏直『片足鳥居の映像』。長澤勝俊『詩曲』。サークルの先輩がこぞって吹いていたのを追いかけて吹いてました。集団はそんな私の尺八スタイルの延長にある音楽で「現代邦楽」をことさら意識することはありませんでした。

そんな中、勧められて育成会に篠笛で通うこととなりました。上参郷祐康先生、藤井凡大先生、杵屋正邦先生。それぞれの個性豊かな授業。そして、さまざまな立場から参加している同期の仲間たち。集団の音楽、仲間とはまた違うかけがえのない知識、人間関係を得られました。実は集団にも、尺八の宮田耕八朗師(8期)、笛の望月太八師(11期)、お二人とも育成会に参加されてらっしゃるのでした。また、尺八のみのアンサンブル『尺八ゾリステン』でJAZZやクラシック、たくさん演奏しましたが、発案者三橋貴風氏(17期)もそうです。こうした洋楽よりの現代邦楽を中心に活動していた一方、純邦楽である長唄音楽に取り組み、邦楽囃子笛方としての活動を始めたことが、大きな転機となりました。特に能管。三味線音楽である長唄は唄い手によって全体のキーが半音または1音上がったり、下がったり。でもその中で能管はキーを変えずに同じ高さで吹く。それだけでも難しいのに、「アシライ吹き」。これは竹笛にもあって、三味線と唄の旋律に「つかずはなれず」に吹く。一言で言えばかんたんなようですが、さっぱり分からず、勉強すればするほど拍節感覚が乱れ、集団の洋楽的アンサンブルで4/4が取れなかったこともしばしばありました。今となっては懐かしい思い出です。

洋楽と純邦楽を行き来することに慣れてきたおかげで、コード進行の中に能管や竹笛のアシライをアドリブとして入れることができるようになりました。冒頭で「現代邦楽」を意識するようになったのは最近と申したのは、集団のように洋楽出身の作曲家が邦楽器を用いて作曲する作品ばかりでなく、純邦楽の熟練者が洋楽の文法を用いて作曲された作品も「現代邦楽」なのではないか? との思いからです。今回の「響」では、藤井凡大先生の四重奏曲はまだ「現代邦楽」を意識しなかった頃以来45年ぶり、尺八演奏家 土井啓輔さんの作品という後者の意味での「現代邦楽」である『水龍吟』の初演と、自身の歴史を辿る演奏機会に恵まれ、身の引き締まる思いです。

「これからの同窓会」

高須真穂 (32期:箏)

2010年に55年の歴史を閉じたNHK邦楽技能者育成会は、会を存続させたいという有志の方々の熱い思いから同窓会が設立され、2013年には同窓会による第一回演奏会、現代邦楽「考」が渋谷のさくらホールで開催されました。

出演募集の呼びかけに、数年前に師匠を亡くし勉強の機会を求めている私は飛びつくように参加を決め、リハーサルに向けて練習を進めていたある日のこと、留守番電話に「後藤すみ子です。楽譜の訂正と練習のことでお電話しました…」とメッセージが！雲の上の方と思っていた先生から直接お電話をいただいたことが信じられませんでした。この会を成功させようという並々ならぬ決意に身の引き締まる思いがいたしました。

今では考えられませんが、リハーサルもNHKのスタジオで行われました。廊下で復習する私たちを見かねて、NHKの方が部屋を探してください、長い廊下を楽器をかついで移動して練習したことも。多くの方々に支えられて、熱気あふれる素晴らしい舞台を経験させていただきました。

その後の公演では、三善晃作曲の『流觴曲水譜』、一柳慧作曲『密度』など超一流の現代音楽の作曲家が「邦楽4人の会」のために書き、世界中で演奏された宝物のような曲を学ぶ機会をいただきました。私の頃の卒業演奏の曲は、講師の杵屋正邦先生と藤井凡大先生がその期に合わせて書かれた曲で古典の要素が強かったので、これまでと全く違う現代音楽の世界に衝撃を受け、すっかりとりこになってしまいました。

2017年からは会員の研鑽のための講習会の発表の場として、現代邦楽「響」の演奏会が開かれることになりました。講習会では、後藤すみ子先生がこれまで培ってこられたことを惜しげもなく教えてくださり、その貴重な言葉をひと言も聞き漏らすまいと必死に楽譜に書き留めました。謙虚に音楽に対し常に努力を惜しまれない先生の姿に接し、これから私が目指していく道を照らされたように感じました。

同窓会の立ち上げから10年余が経ちました。演奏会に向ける出演者の「熱い思い」は今も変わりませんが、人数は初回の1/4になってしまいました。私が入学した頃、育成会は狭き門で「君たちは累々たる屍を乗り越えてここにいるのだから、心して勉強しなさい」と藤井凡大先生に檄をとばされたことを思い出します。育成会のこれまでをもう一度振り返り、これからの日本の音楽の未来のために、私たち卒業生が果たしていく役割について考え、心して進んでいかなければならないと思っています。

program

1. 尺八・箏・十七弦のための
四重奏曲

藤井凡大 作曲

2. 「水龍吟」(委嘱初演)

～5人の勇気ある尺八奏者による～

土井啓輔 作曲

響 現代邦楽
HIBIKI
2024

3. 時の旅人

川崎絵都夫 作曲

4. 風と光と空と

佐藤敏直 作曲

尺八・箏・十七弦のための **四重奏曲** (1959年作品)

尺八	竹井 誠 (27期)	岩本 みち子 (51期)	
箏 I	福本 礼美 (54期)	馬場 千年 (54期)	五味 静子 (7期)
箏 II	高須 真穂 (32期)	伊藤 厚勢 (12期)	大澤 善子 (18期)
十七弦	井上 千恵子 (15期)	牧野 広美 (35期)	

作曲者は、九州大学工学部の造船科を卒業後、音楽の道を歩むことになった異色の作曲家である。折しも“現代邦楽”と呼ばれる創作活動が活発になり始めた時期で、当時、邦楽アンサンブルの専門団体として草分け的な存在であった「邦楽4人の会」の委嘱を受け作曲、宮城賞を受賞している。

作曲者によれば、細部の音構成については、「搔き手」「割り爪」などを意識的に用いて“音をぶつける”やり方を拡大した部分が随所にあるが、これは“演奏手法によって生じた音”を種にして、それを音程上での意識的処理に発展させようとしたもの、又、雅楽における和音の基本的な考え方である完全五度、または完全四度の積み重ねを発展させて、ある音を中心に、その上下に対称形で、同じ音程の音のかたまりを組み合わせて、新しい和音を創る、など“伝統の音”を基に、いろいろな試みをしたということである。技巧的には難易度の高い曲であるが、時代を超えてもなお、新鮮な魅力に満ちた作品である。

I Allegro con brio

自由な形で作られているが、ソナタ形式とも考えられる。激しいリズムや律動感を持つ。

II Andante molto mosso

特徴ある五度構成のオスティナートの上にのせた、尺八の不思議な旋律が印象的な楽章。

III Allegretto Scherzando

3/4 拍子と 3/8 拍子がひとかたまりになった、焦燥感のあるリズムを中心に作られている。

IV Allegro

ややロンド風で個性的なリズム、流れるような旋律の断片、そそるような細かいリズムなどが、時間の流れを細かく区切って展開している。

[前川出版発行楽譜解説より転載]

2

「水龍吟」 ～5人の勇気ある尺八奏者による～ 〈2024年 委嘱初演〉

- 尺八Ⅰ 竹井 誠 (27期)
 尺八Ⅱ 原郷 界山 (44期)
 尺八Ⅲ 岩本 みち子 (51期)
 尺八Ⅳ 山本 貴之 (55期)
 尺八Ⅴ 古屋 輝夫 (16期)

中国文学に、漢文や唐詩、元曲などとならんで、宋代に隆盛をきわめた韻文で宋词がある。今回の曲は数ある作品のなかで、王沂孫（南宋末期の人）の「水龍吟」をもとに作曲したものである。

「水龍吟」とあるが、これは宋词の形式の名称なので、残念ながらファンタジックな「水」も「龍」も「吟」も登場してこない。そして、本来宋词は叙情的な歌曲であるが、この詞では、元の侵攻をうけ、滅びゆく祖国を目の前にし、その亡国の悲哀を「枯葉」をテーマに綿々とつづっている。

詩人は南宋が滅亡した後、遺民として生き長らえた。

破碎されゆく国を目の当たりにしながらも、本来の美しい山河を心に思いつつ過ごした詩人の心を五人の勇気ある尺八演奏家の方々に託す。

(作曲者)

<土井啓輔氏 略歴>

岡山県出身。幼少より、祖母、母に吟詠の徹底的な稽古を受け、後に尺八を手にする。

上京後、小野正童師、横山勝也師に師事、尺八奏者となる。

和太鼓の林英哲をはじめ、内外のさまざまな音楽家と共演する。

クロード・ロジェ師にジャズ作曲編曲、インプロビゼーションを学ぶ。

後にクラシック作曲を学び、作曲活動を開始する。

磨赤兒率いる舞踏集団「大駱駝艦」の音楽を長年に亘って手がけている他、邦楽作品として、尺八家 古屋輝夫氏、箏曲家 大西瑞香氏、丸田美紀氏等よりの委嘱作品など多数。

近年、岡山県津山市に移住。母、土井白鳳の跡を継ぎ、白鳳流金烏吟詠会会長を継承。

さまざまな音楽活動を続けている。

3

時の旅人 〈2002年作品〉

三弦	富緒 清律 (33期)	竹澤 かほる (27期)	成瀬 朋子 (48期)
箏	五月女 雅 (35期)	梅田 佳予子 (33期)	
	一色 美枝 (34期)	馬場 千年 (54期)	
十七弦	横山 裕子 (29期)	麗明 智翔 (48期)	

第1楽章 悠 久

第2楽章 太古の森

第3楽章 奔 流

曲はドリア旋法を基本に、邦楽器の遙かな祖先を偲びながら、遠く原始の時代から未来まで「時の流れ」に想いを馳せます。

第1楽章は悠然とした時の流れ。

第2楽章は命を育む太古の森からいろいろな鳥や動物の鳴き声、水の滴り、木々のざわめきなど様々な音が聞こえてきます。

第3楽章は未来へ向けて、時が奔流^{ほとばし}となって進みます。ここでは各楽器は休み無く動き続け、技術的にもやや難しい楽章です。

邦楽器の新しい感覚をお楽しみください。

(作曲家)

邦楽界の最新動向がひと目でわかる情報誌

毎月1日発行・A4判・770円

(同内容同面額のデジタル版もあり)

お得な定期購読がオススメ(送料弊社負担)

邦楽ジャーナル

(有)邦楽ジャーナルは

【出版・通販・イベント】

3つの柱で運営します。

◆月刊情報誌「邦楽ジャーナル」の発行

◆1900アイテム余の邦楽CD・書籍等の
通信販売「HOW」の運営
<http://hj-how.com>

◆コンサートやワークショップの制作

〒203-0054 東京都東久留米市中央町6-2-5 代表・田中隆文

TEL042-472-3870 FAX042-420-1099 info@hogaku.com



風と光と空と

〈1986年作品〉

- 指揮 石川 憲弘 (26期) [32期~39期講師]
- 箏 I 牧野 広美 (35期) 五月女 雅 (35期) 飯田 智奈美 (54期)
- 箏 II 五本木 茂美 (39期) 梅田 佳子子 (33期) 五味 静子 (7期)
- 箏 III 菊池 美恵子 (27期) 一色 美枝 (34期)
- 箏 IV 麗明 智翔 (48期) 横山 裕子 (29期)
- 箏 V 福本 礼美 (54期) 中川 裕美 (37期)
- 十七弦 I 合田 真貴子 (34期)
- 十七弦 II 菊葉真うさぎ (48期)

伝統的なお箏の調弦が今日のようなものになっているのは、当然のことながら伝統的な音楽を奏するのに最も相応しいという理由になろう。胴の形などもそれらの響きを豊かにするために試行錯誤を経て定着した筈である。けれども私は、そのお箏の音色からしばしば、いわゆる教会旋法への想像をかきたてられる。ハープに近いものを潜在的に感じているのかもしれない。

この作品は3つの楽章から成っており、そのほとんどが教会旋法的であるから、従って調弦もすべての箏が、音域上の差があっても、同じになっている。もっともこんなことは合奏だからこそ出来ることで、独奏だったら音域が狭くなって不自由になるに違いない。

ところで、風も、光も、空も、それ自体では形もなく意味も不明確であるから、仮りに1枚の木の葉すらも泳がせることがなければ、これを単に、I、II、IIIとしてもいいぐらいのものである。

構成は、箏5パート、十七弦2パートとなった。

(作曲家)

～次回演奏会のご案内～

現代邦楽「響 HIBIKI 2025」
2025年 3月 3日(月)
豊洲シビックセンターホール

NHK邦楽技能者育成会同窓会 現代邦楽「響 HIBIKI 2024」 動画配信のご案内

本日の公演の様子は、下記のURLまたはQR
コードより、NHK邦楽技能者育成会同窓会ホー
ムページにて、後日ご視聴いただけます。

<https://hougaku-ikuseikai.com/hibiki2023>



現代邦楽「響」実行委員会

後藤すみ子 (2期)

横山裕子 (29期)

山口連山 (32期)

高須真穂 (32期)

富緒清律 (33期)

合田真貴子 (34期)

設楽瞬山 (38期)

原郷界山 (44期)

福本礼美 (54期)

井上美和 (55期)

[出演]

指揮 / 石川憲弘 (26期) [32期～39期講師]
演奏 / NHK邦楽技能者育成会同窓会会員

[後援]

東京邦楽器商工業協同組合

公益 財団 日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

(有) 邦楽ジャーナル

(五十音順)

[協力]

舞台スタッフ / (株) 琴光堂

[企画/制作]

現代邦楽「響」実行委員会

gendaihougaku-hibiki@outlook.jp

NHK 邦楽技能者育成会同窓会

n.ikuseikai@gmail.com

Fax:03-6800-2102